

「科術と芸術の融合に貢献するCGおよびリアリティーの追求

- 学術・芸術に優れた業績に紫綬褒章 -

<ご講演概要>

CGは設計の支援や科学計算の結果の可視化とし発展し、今や芸術表現にも不可欠なものになっています。2017年秋に紫綬褒章を頂きましたので、その記念としての講演をさせていただきます。紫綬褒章は「学術、芸術、（およびスポーツ）にすぐれた業績」のあった人に対してあたえられる章です。この趣旨は、まさに本シンポジウムのテーマの芸術・科学に関連しております。この受章により、CG研究が社会的に認識されたといえます。本講演では、私の研究歴とともに、科学計算および芸術表現に関連する研究を紹介し

<ご講演者プロフィール>

西田友是 東京大学名誉教授、広島修道大学経済科学部教授（ドワンゴCGリサーチ所長 兼）。

昭和48年広島大学工学研究科修了、同年マツダ入社。昭和54年から福山大学電子電気工学科講師、昭和63年から1年間米国 Brigham Young 大学客員研究員、平成2年から福山大学教授。（平成6年から東京大学理学部非常勤講師を経て）平成10年10月から東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 教授。平成11年から新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻教授。2013年4月から現職（修道大学 教授）。また、同年に研究所（UEI リサーチ）を設立し研究所長（研究所は2015年8月からKADOKAWA-DOWANGO社に移管）。



平成13年から画像電子学会ビジュアルコンピューティング委員会委員長（5年間）、平成18年から情報処理学会GCAD研究会主査、平成21年から画像電子学会会長、国際会議Chair（及び論文Chair）6回、国際会議論文委員50回（SIGGRAPH論文委員5回を含）、国際的学会誌編集委員（米国IEEE学会のTransactions on Visualization and Computer Graphicsの編集委員など）4件など学会委員、協会理事、会社顧問4件を歴任。昭和62年情報処理学会から研究賞受賞（現山下記念研究賞：CG分野で初）、平成17年ACM SIGGRAPHからSteven A. Coons Award受賞（CG分野のノーベル賞、アジア初）、平成18年NICOGRAPHからCG-Japan Awardを受賞。平成29年ASIA GRAPHICSからLifetime Achievement Award、日本国から紫綬褒章を受章。画像電子学会、情報処理学会フェロー授与など31件受賞。平成18年画像電子学会において「西田賞」（国内の優れたCG論文に授与）が創設された。